

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

昨年 2018 年のドル/円相場は、当初想定していたように 2017 年と同様のレンジ相場が継続しました。

年間の値幅は 10 円を下回り過去最少、2017～2018 年の 2 年間を通して値幅は 14 円に満たず過去最少となり、市場のボラティリティから収益を得ようとするディーラーにとっては極めて厳しい環境となりました。

その大きな要因としては、絶好調だった米国の経済状況にもかかわらず、年初に米国の政策への不透明感からドルが下落したこと、そして年末には米金利のフラットカーブ化やそれに伴う米国株式の大幅下落、米中貿易摩擦の激化などのリスク要因が相次いだことでドルの上値が抑えられたことが挙げられるでしょう。

米国経済が強調であり利上げ予測が続くためにドルロング・ポジションが蓄積される中でもドルが大きく上昇しないという現象は、ドル高派にとって想定しにくい状況であったと思われます。

そのため、本年年明けの 1 月 3 日に 108 円を割り込むと損切りのドル売りを巻き込みながら、ドル短期に 4 円以上の下落という動きが引き起こされました。

その後、1 月の米 FOMC では声明文から追加利上げのバイアスが削除され利上げ継続という政策スタンスが大きく変わったことによりドルは持ち直しました。

また、米経済指標は好調を維持するものも多く、良好なファンダメンタルズのなか金利が低位安定

ドル/円相場のトレード戦略

するという適温相場が再び始まったとの期待が強まっています。

ただし、米中通商交渉が難航し、米国が対中関税引き上げを実施、中国側も報復措置に出る可能性が高いことがドルの上値を抑える動きが続きそうです。

米中貿易摩擦の深刻化を考えた場合、やや下値リスクが高いと思われ、当面は107円から112円程度のレンジが想定されます。

■短期展望

先週は、109円前半でスタートした後、109円台で底堅い動きを続けました。しかし、米中貿易摩擦の不透明感からドルの上値も重い状況が続き、週末には米国がメキシコからの輸入品に段階的に追加課税していく方針を打ち出したことで米国株が急落、米長期金利も急低下し、リスクオフの流れで108円前半まで値を下げました。

今週もドルは上値の重い動きで始まり、リスクオフの流れが続く場合にはもう一段の円高で107円半ばが試される可能性があるでしょう。

ただし、週末には米雇用統計を控えており、それ以前に下値攻めをするかは疑問です。

また、トランプ大統領が米国株安を懸念して、メキシコへの課税強化を翻す可能性もあり、その場合にはドル上昇となるでしょう。

以上を考えると、今週は107円半ばから110円程度のレンジを想定します。